

第6回三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会 議事概要

日時：令和8年8月21日（金） 10：00～11：00

場所：合人社 ウェンディひと・まちプラザ

北棟6階 マルチメディアスタジオ

出席者：委員13名（うち代理2名）、オブザーバー1名（代理）

1 開会（会長挨拶）

- ・ 先日、千葉で大雨が降り、駅前広場も水に浸かり、鉄道も止まるなど甚大な被害があった。もちろん鉄道を強化することも大事だが、やはり駅前広場が使えないと鉄道も使えないので、まちづくりと交通を一体的に考えて取り組んでいく必要があると強く思った。
- ・ 本日は、JR芸備線の利便性向上に資する機能強化策の方向性が議事となっているが、タイトルにもあるようにJR芸備線の利便性向上なので、もちろん鉄道をどうするかという話もあるが、どのようにみんなが鉄道を使いやすくなるのか、まちづくりの観点からいろいろと御意見をいただきたい。

2 議事（1）JR芸備線の利便性向上に資する機能強化策の方向性

資料1を庶務、三次市、安芸高田市、広島市より説明後、委員より意見あり。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・ 1ページ目の芸備線の利用状況のグラフで、最新の2025年度が、2017年度に比べたら18%減ということであるが、2021年度から2025年度までは増えており、その増えている要因は何か分析されていたら教えていただければと思う。いろいろな取組が効果を生んでいるのか。人口は減少をしている中で利用者がちょっとずつ増えて、少し明るい兆しも見えるのかなと思いつつ、その辺りが分かれば教えていただければと思う。

【村井委員（JR西日本）】

- ・ 今の質問への回答も併せて、JRから3点、今回の資料内容について発言したい。
- ・ まず芸備線の利用状況、その潜在的な需要について、今、加藤先生からありましたが、芸備線 三次～広島間の利用状況については、資料1のとおり1990年以降減少傾向が続いていたが、2018年に更に利用状況の減少が進んでいく中で、2011年以降は利用が徐々に回復しつつある状況である。2025年度の輸送密度は2,710名ということで回復傾向が継続しているところだが、我々のほうとしてはいろいろと確認していく中で、特に先ほど三次市から説明があった2021年から三次市と一緒に取り組んでいるバスと鉄道が連携した「どっちも割きっぷ」が好評であり、このような利用状況への影響があるものと考えている。
- ・ 依然として芸備線の利用状況は非常に厳しい状況ではあるが、2ページ以降の移動実態の調査、アンケート調査のとおり、潜在的な需要が存在することも示されているので、どっちも割の様に関係者の皆様と連携し施策を講じることで、芸備線の潜在的な需要を掘り起こせる可能性がある、この線区を考えている。
- ・ 2点目は、地域ニーズを踏まえた鉄道の機能強化等について、現在、当社として考えられ

る機能強化案を説明しており、この案を踏まえた上で今回取り組んでいる方向性をお示しいただければ良いと思う。資料 12 ページでも示されているが、鉄道そのものの機能強化に加え駅を中心とした拠点づくり、二次交通への充実強化という方向性を掲げており、これらの点について、自治体の皆様方と連携して取り組んでいきたいと考えている。

- ・ 資料の志和口駅舎については本年度から、地域団体 LM0 の皆様に御活用頂いており、そのための駅活用についても、これからしっかりと検討し実現していきたいと考えている。
- ・ 当社の管内においても自治体、民間事業者、当社が連携し、飲食店や地域コミュニティーの場として駅を地域のにぎわいの拠点として御活用頂いている事例もある。このような事例を芸備線沿線で更に築きあげていきたい。
- ・ 最後 3 点目、今後の取組の方向性について、今回の資料にも地域モビリティの刷新に関する検討会の方向性が触れられており、その報告書においても、事業者の経営努力のみでは、利便性可能性の高い鉄道サービスを保っていくことは困難になっていると記載されている。
- ・ 当社としても安全投資以外の利便性や生産性を高める設備投資などを単独で行うことは、経営判断の合理性の観点から非常に厳しい状況にあることを、これまでも伝えてきたところであるが、そのような状況の中、国において地域公共交通の活性化再生法が改正され、ローカル鉄道再構築のための仕組みが強化された。人口減少、少子高齢化が加速度的に進んでいる昨今、ローカル線においても、沿線地域の課題は待ったなしの状況であると考えているので、時間が経過すればするほど環境がより厳しくなっていくものと考えている。
- ・ このような中、今後の取組の方向性として、法定協議会への移行を目指すとのあるので、このような動きを速やかにつなげていけるよう関係者間でしっかり議論を深めていきたいと考えている。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・ 様々なソフトの施策も含めて、潜在的な需要を掘り起こしているということが、最新のトピックスとして示されたと受け止める。今後も潜在的な需要に対して、関係者が持続的にアプローチしていくということが大切である。
- ・ P2 以降にこれまでの協議会での様々な調査、アンケートがコンパクトにまとめられていると認識している。P2 の資料は住民アンケートの結果を基にしたものであり、住民アンケートは 18 歳以上が対象であり、学校でのアンケートも大体同じような傾向であったということであるが、この通勤通学の中で通学の実態がもう少し肌感覚としては多いのではないかなと思う。数字を見ると、例えば三次市から広島市への通勤通学が 12 人（7 人、58%）になっているが、もう少しおられるのではないかなと思う。全体を平均すると 15% の人が芸備線を利用しているということなので、例えば通勤通学時間帯では芸備線の乗車率（利用率）が（平均値より）高くなっていると思われるので、芸備線が交通渋滞の緩和等まち全体にも効果を持っていると感じた。
- ・ 先ほど「どっちも割きつぶ」の話があったが、以前は、三次～広島間の高速バスは 1 日 40 往復ぐらいあったが、最近時刻表を見てみると随分便数が減っている。やはり高速バスも、ドライバー不足や資源に限りがあるので便数が少なくなり、昔は広島から三次へ深夜高速バスもあったが、それがなくなったために飲み会を早く切り上げる必要があるという状況にな

った。そのため芸備線が相対的にも役割が高くなってきて、二次交通という話がよく出てくるが、並行している他の交通モードも含めて、全体が地域間の軸のようになり、芸備線が基幹公共交通ネットワークを構成しているということだと思う。

【田中委員（広島市安佐北区）】

- ・ 既に新聞等で紹介されているが、現在、安佐北区白木地域において、地域が主体となって、白木にある四つの小学校と一つの中学校を統合した一貫校の設置に向けた議論が進められている。特に小学校の統合に関しては、児童・生徒だけで芸備線やバスなどの公共交通を利用して通学することが十分考えられる。やはり地域内の駅へのICOCAの導入、それから駅への送迎が容易にできるような環境整備が重要になってくると思っている。特にICOCAの導入については資料のP6にもあるとおり、「全駅でICOCAが利用できるようになる」の回答が、白木地域で最も多い割合が出ており、狩留家駅以北のICOCAの導入については、検討を進めていく必要があると思う。
- ・ 個人的な話だが、盆に東京の友人が広島に来て宮島へ行ったが、Suicaで宮島の船も乗れて、非常にICが便利だと感じた。一方で、安佐北区の井原でも6月にホテル祭りがあるが、知人が乗車時にICOCAをタッチしてしまい降車時に困っていた。こうしたことから、通学面だけではなく観光面からもやはりICOCAが必要だと感じたところであり、是非検討をお願いしたい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・ 広域都市圏の観点から、少し今回この利便性の話についても考える必要があると思っている。特に広島広域都市圏としては、北は島根の方まで圏域になっていて、先日もサッカーの話で、浜田の人がサッカーを見に行く時に車で来るが、駐車場が無く困っているという話があった。個人的には三次まで車で来てもらい、三次で車を止めてもらって、そこからJRで来てもらう方法もあると思う。何かそういった広域的な動きも新しいことを考えていく必要があると個人的には思っている。

【三井委員（代理）（広島市）】

- ・ 現在の取組としては、広域都市圏の地域団体が交流する際の交通費を補助する制度を設けている。移動手段として、公共交通を使うパターンと貸切バスのパターンがあるが、貸切バスの方が利便性が高く、そちらの利用が多いという課題がある。今の補助率は、貸切バスも公共交通も、同じ補助率で運用しているが、補助率に差をつけて、来年度以降は、公共交通の利用促進を図っていきたいと考えている。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・ 広域的な観点ということでは、広島市長や松山市長らが集まった会議が開かれ、圏域の周遊コースを作りその中で公共交通の活用が提案されたというニュースを見た。これまでの協議会の中でも、広島に来た観光客のうち1%ぐらいしか県北に立ち寄っていないというデータもあった（広島市来訪観光客に対するアンケート調査による）。広域の首長が連携して色々なものに公共交通を活かしていくことができると良いと思うし、そういったところを芸備線の取組の中に取り込めたり、連携できたりすると良い。

【三井委員（代理）（広島市）】

- ・ 今週 18 日に瀬戸内 4 県都市長会議があり、広島市、高松市、松山市、岡山市の首長が集まり「公共交通を活用した観光振興」というテーマで意見交換をした。インバウンドがかなり増えており、公共交通を使っただけのももちろんそうだが、拠点となる駅からレンタカーやタクシーなどの二次交通も含めて周遊ルートを考えていくと、今までなかなか観光客がいけなかったような観光スポットにも行けるようになるということで、来年度はそういった周遊ルートと一緒に考えてみようという話にもなった。
- ・ 瀬戸内 4 県都市だけではなくて、広島広域都市圏という枠組みもあるので、そちらの方でも公共交通を使ってもらふ施策にしっかりと取り組んでいきたい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・ P11 から P12 にかけて、これから 3 市が連携した移動創出の考えということで、駅を中心とした拠点づくりと二次交通、それから広域的な話ということで、今どちらかというと広域的な話をしていただいたが、大事なのは駅を中心とした拠点づくりがとても大事だと思っている。文字だけ読むと、立地適正化計画に基づいて都市施設を集約しますとか、そう見えるかもしれないが、そこまではなくても良いと個人的には思っていて、そういう意味では今取り組んでいる、例えば活動拠点、つまり駅舎を活用して人々が集まるとか、そういった活動拠点はすごく重要だと思うので、これは簡単に取り組むことができると思う。
- ・ あとは乗り換え拠点、まさに二次交通として、いろんな方々に駅を中心に乗り換えてもらう。そういった乗り換え拠点や活動拠点というのは比較的手軽に整備できそうな拠点づくりだと思うので、引き続き頑張って進めていく。そうすると人が集まって、それをターゲットにした商業施設ができたりといった動きができてくると思う。最初からコンパクトな都市づくりだから、郊外にショッピングモールみたいなものができれば良いが、なかなかそれは難しい話なので、そういった拠点づくりを目指すのは良いけれども、まずはできるところから拠点を作っていくことがとても大事だと思う。
- ・ そういう意味では、志和口駅舎の事例、三次市の事例、あるいは安芸高田市の甲立駅とかは、駅の周辺で活動されているので、そういった駅舎を活用した活動拠点づくりみたいなものがまずあって、そこへみんなが駅に集まってくれる。その中で、二次交通をうまく絡ませることができれば、乗り換え拠点ということでさらに人が集まり、そういう人が集まってくると、多分、ビジネス感覚に長けた人はそこで商売しようか、みたいな形で動いていくと思う。非常に地道な活動ではあるが、今 3 市が取り組んでいる、活動拠点づくりとかは、引き続き取り組むべきだと思うし、その延長線上に適正化計画で書いているような拠点づくりみたいなものが必ず出てくると思うので、着実に今取り組まれていることを、引き続き活動するのが良いと思った次第である。

【重見委員（中国運輸局）】

- ・ 利便性の向上、サービスの部分は非常に重要なことだと認識している。一方で安全も重要で、昨日、栃木県の方で 4 人の方が特急列車と追突するという事故が発生したが、我々は結局業務の中で、事故防止とかに事故原因の究明などをやっている。
- ・ P10 にいくつか出てきているが、鉄道を整備することに対して、安全確認について重視し

ており、安全基準、技術基準に適合していることを確認しないと、工事着手できない。この辺りについては鉄道局や我々も確認していくが、やっぱりここが前提で、計画が進まないとなかなか見えてこないと思いますので、そこは注視していただいて、現段階では、なかなか調整については見えていないと思うので、今後、具体化していく中で、そういう部分も注視して、技術基準の適合を大前提として進めていただきたい。

【吉岡委員（広島市）】

- ・ P10 の各市町の計画として広島市の計画があり、「高陽地域・白木地域の活性化プラン」が記載されているが、この中の7つのプロジェクトの中には、高陽に「みんなで使おう芸備線」と白木に「鉄道「(Xエックス)」」というプロジェクトがあり、それぞれが JR 芸備線の活性化につながる取組を進めている。今後どうするかという話し合いの中で、白木の「鉄道「(Xエックス)」」では、去年は 110 周年だったが、今回は 111 周年ということで、11 月に「芸備線で行こう 111 周年」のイベントをしようじゃないかということで、ステージ、体験、物販などを志和口駅前で実施したいということで、いろいろ話が進んでると聞いている。
- ・ また、乗り換え拠点という視点により、駅舎を活用した取組として、「みんなで使おう芸備線」のプロジェクトでは、7 月下旬に独自で JR 芸備線の玖村駅前の駐車場に関するアンケートを実施されており、地域で駅を使うにあたって、乗り換えのしやすさや利便性を高めたいということで、まずはアンケートをとってみようと独自の動きもされている。
- ・ こうした取組を通じて、地域の活性化、それぞれ JR 芸備線の利用促進に向けた取組を進めるということで、地域住民の皆さんが自ら JR 芸備線の重要性を考えて、どうしたら良いかということを考え、こういった小さなことを積み重ねながら進められているので、これが更に継続していくように、本市としても引き続き住民主体の取組をしっかりと支援をしていきたいと考えている。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・ P12 のところで、移動創出に係る課題ということで、駅を中心とした拠点づくり、二次交通、そして広域的な交流促進に資する芸備線の機能強化ということで、これから考えられる方向性ということを書いているが、そういったハード的な取組、それからソフト的な取組、特に何か背伸びをした拠点づくりより、着実に活動を積み上げていく拠点を作っていくところがポイントだと思うので、引き続き、駅舎や地域資源も活用して、活動することが大事だと思う。また当然のことながら、運輸局から発言のあった、技術基準、安全第一は欠かせないことなので、そういったことを含めて、これから考えていく必要があると思う。
- ・ 具体的には P13 のところで方向性についてまとめてあるが、こういった考え方で進めていくということになる。また、下に来年度以降法定協議会への移行を目指してと書いてあるが、引き続き、進めていければ良いと思う。
- ・ 最後に P17 のところで、まちづくりを見据えた JR 芸備線への関わり方の記載があるとおりに、まずはその拠点づくり、やはり駅周辺に人が集まるような仕掛けを作っていくということが大事だと思う。そのためには、JR、そして各行政機関に頑張ってもらい必要があると思うので、引き続き、まちづくりと交通をセットで考えていく取組を進めていきたいと思う。

【矢島委員（代理）（オブザーバー）（広島県）】

- ・ 本日の協議会では、これまで行われてきた協議会の議論を踏まえ、資料の P8 から P10 に芸備線に関連する沿線各市の都市計画、地域公共交通計画について説明していただいた。
- ・ 本県からは、これまでもこの協議会の場で申し上げているとおり、芸備線の機能強化策を議論していく上では、沿線各市が、これらの計画に基づいて、地域のまちづくりに係る取組を具体的にどのように進めていくのか、その中で芸備線がどのような役割を果たしていくのかについて、一体的に、また丁寧に議論していくことが必要であると考えている。
- ・ その際には、例えば沿線地域の公共交通体系の在り方を踏まえて、鉄道と路線バスが重複しているような区間について、リソースが限られている状況の中で、どのように役割分担をしていくのか、あるいは、観光客を呼び込むために、それぞれの沿線地域でどのように、観光振興を取り組んでいくのか、こうした議論も当然必要になってくる。
- ・ 今後、交通分野にとどまらず、それぞれのまちづくりの視点から幅広く議論していく必要があるものと考えている。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・ 新アリーナについて J R 西日本がすごく前向きに対応していただける印象を受けているが、やはり広島駅に大きな施設ができると、当然みんな芸備線使って来てくれると思うので、とても気になっている。市民県民の方から、駅周辺の交通渋滞の問題を懸念されることもあるが、皆さん公共交通でぜひ来てください、なぜなら駅前にあるのだから、ということを強く思う。
- ・ そういう意味では、これから様々な取組が県内市内で行われると思うので、それと関連付けて、この芸備線の問題もまちづくりと関連付けた取組として進めていくのが良いと思うので、また引き続き皆さんの御協力を頂きたいと思うところである。

3 議事（2）その他

庶務より、「芸備線公共交通ネットワークのあり方検討業務」の状況について説明。

4 閉会